

## バスケットボール戦評記入用紙

大会 平成26年度 全国高等学校総合体育大会 バスケットボール競技大会 埼玉県予選  
 日時 6月21日 土曜日 第2試合 Kコート 時刻 11:30  
 場所 和光市総合体育館 記入者名 中村 敬子

Aチーム	得点		得点	Bチーム
昌平 高校	69	$\left( \begin{array}{c} 14 - 12 \\ 20 - 16 \\ 17 - 20 \\ 18 - 16 \end{array} \right)$	64	川口北 高校

### <戦 評>

新人大会では昌平、関東予選では川口北が勝利し、今年のチームの対戦成績は1勝1敗と五分。接戦が予想され、インターハイの出場権獲得を大きく左右する大事な一戦である。

- 1P 両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり大きさを優位に立つ昌平が#7、#15のリバウンドシュートで得点。対する川口北は、オフェンスのリズムが悪くシュートが入らない。開始5分でコントロールタワーである#4のファウルが3つとなり大ピンチとなる。しかし、川口北はここで#4をベンチに下げず、なんとかオフェンスのリズムを立て直そうとする。これが功を奏して動きがスムーズになり、シュートのリズムも良くなる。14-12互角の展開となり第1ピリオド終了。
- 2P 昌平が#4のジャンプシュート、1:1ドライブ、#15のリバウンドシュートで残り8分20-14とリードを広げたところで川口北がタイムアウト。昌平#15にパスが入ったところをダブルチームでプレッシャーをかけて相手の流れを止めると、川口北#6のシュートが小気味よく決まりはじめ、ゲームの流れを引き寄せる。残り2分で26-28と逆転するが、昌平#7がリバウンドシュート、3Pと活躍、34-28と再逆転して昌平の6点リードで前半終了。
- 3P 昌平は立ち上がりに#6の力強いリバウンドから#7が走り速攻で得点。勢いに乗るかと思われたが、川口北は#6のインターセプトからの得点をきっかけにゾーンプレスを仕掛け、勢いを止めようとする。しかし昌平は#7が連続して3Pを決め、流れをわたさない。しかし、だんだんとゾーンプレスによるオールコートからプレッシャー効果で昌平の勢いが止まると、川口北は動きの中からスペースを利用したドライブや、合わせからのジャンプシュートで得点。残り1分で46-46の同点とするが昌平も意地をみせ、51-48と昌平3点リードで最終ピリオドへ。
- 4P 最終ピリオドは一進一退の互角の攻防が繰り広げられる。残り7分で54-54の同点。その後は、川口北は#6、#10の3P、昌平は#5の3Pと#7のリバウンドシュートとお互い一步も譲らない。最終的に勝負を分けたのはやはり高さ。残り2分で昌平は、#6のリバウンドシュートで63-62と逆転。さらに残り1分、#15のリバウンドシュートで65-62となり川口北タイムアウト。#6のシュートが入り、なんとか追いつきたいところだったが、#15のフリースロー、#8の3Pで万事休す。昌平が接戦をものにし、決勝リーグ1勝目を飾った。